

(様式 1)

令和 7 年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立柳島小学校
校長名	近藤 幸弘

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から（今年度目標に対しての成果と課題）

成 果	課 題
・ 3～5 年同一集団経年比較：全教科昨年度の正答率と同程度または上回った。 ・ 3～6 年同一集団経年比較：7 教科で D・E 層の減少が見られた。6 年社では 10.6 p 減少した。 ・ 2・3・4・6 年同一集団経年比較：算数正答率が全国平均と同程度（2 年）、または上回った（他学年）。目標値との比較では、全学年同程度（2・5・6 年）、または上回った（3・4 年）。	・ 6 年同一集団経年比較：昨年度正答率と同程度（国・算）、または下回った（社・理）。 ・ 3～6 年同一集団経年比較：5 教科で D・E 層の増加がみられた。 ・ 今年度目標「D・E 層 7 %以上減」は、6 年社会のみであった。 ・ 5 年同一集団経年比較：算数正答率が全国平均を下回った。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
・ 社会性「対話・話し合い」、学級環境「学級の規範意識」、自己認識「感動体験」に関する調査項目について、多くの学級で全国平均以上の割合で肯定的回答が得られた。 ・ 全国値との比較で、－2 p 以下となる調査項目がほとんど見られなかった。	・ 自己認識「他者からの評価」に関する調査項目について、複数の学級で肯定的回答が全国平均以下の割合となった。 ・ 調査対象学年全てにおいて、いじめサインをうかがえる児童がやや増加していた。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
・ 5 年について、「東京ベーシックドリル」で同一集団の経年比較をすると、正答率は毎年前年を上回っている。授業でも、DE 層の児童に知識・技能の定着と意欲の向上がみられる。区調査の数字に表れてはいないが、徐々に成果が上がっていることを実感している。	・ 6 年について、ベーシックドリルで同一集団の経年比較をすると、正答率は下回っている。また、正答数分布をみると、ピークが 12 点と 8 点に見られた。授業では他学年と比較しても授業とりわけ演習問題に意欲的に取り組んでいる。学力下位層もよく正答している。効果を実感しているものの、区調査結果を見る限り、6 年では学力の二極化が進んでいると言わざるを得ない。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 特に「協働的な学び」に重点を置いた、日々の授業作り

授業の過程である「自力解決→グループによる話し合い→全体での話し合い・練り上げ」の他にも、本校では、「わからない子の話を聞き、わかる子がそれに応じてヒントや解き方を伝える」という「対話による関わり合い」が、高学年に進級するにつれ、日常的に見られるようになってきている。発達段階または習熟度によってはまだあまり見られない学年（算数では習熟度別コース）もあるが、課題の終わった児童に「助けてあげて」と授業者が依頼したり、依頼しなくてもすすんで児童が助けに行ったりする学年も増えてきて、一定の成果を上げている。

本校の学力に関する分布から、学力の二極化が進んでいることが分かっている。授業のねらいを達成し学力を底上げするためには、授業者の指導だけでなく、どうしてもこの「わかった子・できた子が伝える」という学習形態も必要となっている。また、学力下位層の児童を押し上げるだけでなく、「わかった子・できた子」にとっても、相手の話を聞きヒントを考える力・論理的に説明する力・知識の再構成などをして学力を伸ばすよい機会である。「対話による関わり合い」を日々の授業に取り入れ、日々指導にあたる。

(2) 校内研究（算数）をベースにした、組織的な指導力の向上

(1) をさらに確固なものとするために、本校校内研究（算数）の2年目として、特に協働的な学びの一つ「関わり合い」に重点を置き、「日々の授業作り」をすべく研究を進めることとした。「協働的な学び」は、1単位時間の授業の流れで、自力解決後のグループの話し合い→全体での話し合い・練り上げで取り上げられることが多いが、他教科と比べても、算数では評価の観点が「知識・技能」である授業が日常的に多く、練り上げて「合意形成」「最適解」を見出す機会はそれほど多くはない。そこで、日常的に・いつでも・どこでも・児童自らが、(1) で述べた「対話による関わり合い」をできるようにするための指導・支援の手だてを重点的に研究していくこととした。「対話により関わり合う児童」を本校の目指す児童の姿の一つとして、それに至るまで、学年に応じてどのように段階的に指導・支援をしていくか、各分科会で研究していく。

(3) 授業以外での組織的な取組

①「柳島学力テスト」の改善 伝統的な本校独自の学力テストを改善・実施していく。

算数：東京ベーシックドリルで前学年内容の定着度を調べ、定着が不十分な児童に対して確実に指導し、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。

国語：これまで通り現学年で学習した漢字の50題テストを行い、文章読解の基礎となる語彙力を確実に身に付ける。

②振り返りシートの活用

朝学習・授業後の復習など、使用する頻度を上げる。特に理科・社会の学習内容の確実な定着を図る。

3 「令和8年度 墨田区学習状況調査」における目標

(1) 目標

- ・全ての学年・全教科の同一集団経年比較で、正答率が昨年度を上回るようにする。(継続)
- ・全ての学年・全教科の同一集団経年比較で、D・E層を減少させる。(下方修正)
- ・全ての学年で、算数の正答率を全国との比較で同程度以上にする。(下方修正)